

ハツサク交心曲

登場人物

小森 聡 (高校二年生)	聖子 (真理亜の母親)
松山 啓太 (高校二年生)	真理亜 (小学一年生)
吉野 理恵 (高校二年生)	秀子 (聡の母親)
山田 (補導委員)	夏輝 (高校二年生)
玉置 (中年男性)	有紀 (高校二年生)
加奈子 (玉置の娘)	

環紀津駅前通りの片隅。聡と啓太は中央にある植え込みに腰かけて楽しげにギターを弾きながら歌ったり、話したりしている。

啓太 ハイ！3・2・1
二人 ハツサクハツサク！
啓太 いやあ今日もきまってますね、聡さん！
聡 もうやらせんなよ、恥ずかしい。
啓太 そんなこと言っていると一人前の芸人になれんぞ！
聡 歌手です歌手！
啓太 そうだったっけ？
聡 おいこら！啓太！
啓太 わかってるよ、冗談に決まってるだろ。
聡 ・ ・ ・
啓太 えー続いてのゲストは今や日本を代表するトップシンガー！ハツサク！
聡 どうもどうもどうも！（手を叩きながら）聡です！
二人 啓太です！二人合わせて
聡 ハツサクブラザーズ！
聡 じゃねえよ！
啓太 でも俺今シンガーって言ったのに聡が・・・
聡 お前といると俺が俺じゃない気がする！
啓太 俺だってそうだよ。
聡 なんだよ？
啓太 いや、別に。
聡 なんだよ？
啓太 ・ ・ ・あのさあゝ
聡 俺ジュース買って来るな。

聡はコーラを買いに行く。理恵がふらふらと歩いてきて軽く啓太にぶつかる。

理恵 あっごめんなさい！
啓太 いえ、あれ・・・理恵・・・理恵さん！

理恵 え？
啓太 俺だよ、松山啓太！
理恵 松山啓太・・・ケイちゃん？
啓太 そうだよ！
理恵 ケイちゃん元気だった？
啓太 おう！久しぶりだなく小学校六年生以来だよな？
理恵 そうだね。
啓太 相変わらず頑張ってるみたいだな、バイオリン。
理恵 うん、まあね。
啓太 あの堀内音楽学校通ってるんだって？葵が羨ましそうに言ってたよ。
理恵 ・・・・うん、もう中学生よね、葵ちゃん。
啓太 もう中二だよ、あいつよく理恵に遊んでもらってたもんな。
理恵 うん、かわいかった、会いたいな。
啓太 葵に言っとくよ。そういや、何で理恵がここにいるんだよ！？小六で突然引越したのに。
理恵 私戻ってきたの。お父さんの転勤でね、前住んでた家に。
啓太 ええっそうかあうわあ、そりゃ良かった。

聡がコーラを二つ買って帰ってくる。二人が気になる。

聡 誰なんだよ？
啓太 ああ、理恵っていうんだ、今感動の再会しちゃってさ。こいつ最近ハツサクっていうコンビくんだ聡ってやつ。
理恵 コンビって、漫才？
聡 はい、違う、歌手です、歌手目指してるんです！
啓太 どっちでもいいだろ、もしかしてこれからレッスンとか？
理恵 ・・・・そうだよ、これから。
啓太 大変だな。
理恵 私聞いてみたい、ハツサクの歌。
啓太 えっそう？でもまあ・・・レッスンの時間大丈夫なのか？
理恵 電車まだ来ないから。
啓太 じゃあ・・・歌っちゃおう？
聡 もちろん！聞いてください、エンドレスウェイ。

二人はギターを弾きながら歌い始める。そこに聖子が歩いてきて、電話をかけようとする。

聖子 ちょっと静かにしてくれる？

二人は気づかない。

聖子 (ギターの弦を押さえて) ちょっと静かにしてくれる？あ、もしもし真理亜、ママ駅前の植え込みのところまで待ってるからね、分かってるわよね、右見て左見て前見て後ろ見て、そう一回まわって安全が確認できたら渡るのよ。頑張って！待ってるからね。

聖子は電話を切り、植え込みのそばで真理亜を待ち始める。

聡 あのう、弾いてもいいですか・・・？
聖子 どうぞ。

聡は静かめにギターを弾き出す。啓太も静かめに歌いだす。聖子はうつとうしそくに聴いている。そのとき電車が駅に着く。

理恵 あ、ごめん電車来ちゃった、ありがとう、またね。
啓太 お、おうまたな。
聡 また・・・！
理恵 またね！

理恵は走って駅に入っていく。

啓太 可愛かったろ、なんたって俺の初恋の相手だからな。
聡 「吹き出す」初恋？
啓太 吹き出すなよ！俺はずっと彼女のこと思ってたんだよ。悪いか。
聡 別に、へえそっか。
啓太 えーお聞きしますが、聡君は好きな人とかいないんですか？
聡 ！？そんなのなに決まってるでしょう。
啓太 お前とそういう話するなんて今までなかったよなあ、じゃあずっと伊藤美咲さんに片思いですか、かわいいそうに。
聡 ほっとけよ！いつだろうな、結果発表。
啓太 ん？
聡 オーディションだよ！ゆずの後を追ってハツサクデビュー！俺らの夢だもんな！
啓太 夢・・・か、聡ってほんと好きだよな、ギターとか歌とか。
聡 当たり前だろ、俺にはこれしかないからな。
啓太 聡・・・あのさ・・・

真理亜が右を見て左を見て前を見て後ろを見て一回転して走ってくる。

真理亜 ママー！

聖子 お帰りなさい、ちゃんとできたわね、えらいえらい。

真理亜 真理亜えらい！

聖子 はい、お塾へ行きましょうか。

真理亜 真理亜ねえ、学校でいっぱいお勉強したよ。

聖子 そう、これからもっとお勉強しましょうね。

真理亜 はい・・・

真理亜が立ち止まって二人を見る。

聖子 どうしたの真理亜ちゃん？

真理亜 面白そうなことしてるね。

聖子 見ちゃだめ。悪い病気がうつっちゃうでしょ。

真理亜 真理亜もやってみたい。

聖子 だめよ、真理亜ちゃんにそんなことしている暇はないでしょ。

真理亜 何で？

聖子 真理亜にはお塾があるでしょ、杏奈ちゃんや麗華ちゃん達と楽しいお勉強。

真理亜 みんなとおままごとしたいな。

聖子 真理亜はお勉強するの。

真理亜 いい学校入れるようにいっぱいお勉強する・・・

聖子 そうよ、思い出せた？

真理亜 うん。

聖子 真理亜は本当に良い子ね。ほら、行きましょ。

親子は歩いていく。真理亜が戻ってくる。

真理亜 入れて！それ面白い？

聡 え、うん。面白いよ。

真理亜 ホントに？

聡 ホントに？

真理亜 ホントにホントに？

聡 ホントにホントに？

真理亜 ホントにホントにホントにホントにホントに・・・

聖子 真理亜ちゃん！何してるのよ。あなたたちどういうつもり？

聡・ケイ え・・・

真理亜 真理亜やっぱりこれやってみたい！

聖子 だめよ！こんなのちっとも面白くなんかかないのよ。寂しい人がやることなの。

真理亜 でもホントに面白って言ってたよ。

聖子 もう真理亜に変なこと吹き込まないでちょうだい。真理亜、こういう人はどこかおかしい人なの、こんなところでわーわーうるさ

くして。ゴジラみたいな人ね。

聡 そんな言い方・・・
そうにしか見えないけど。ほら、行くわよ。

聖子

真理亜・・・
真理亜、プリキュアスパイラルリング買ってあげる。

真理亜 ホントに！・・・でも真理亜やっぱり・・・

聖子は真理亜を引っ張って去っていく。

聡・・・

啓太 俺ら、そんな風に見られてたのか・・・

聡 人それぞれだろ、でもおばさんは特殊だよ、きつと。

啓太 で、その・・・俺

突然、ラデツキー行進曲の着信音が鳴り出す。

聡 俺じゃないよ。

啓太 俺もこんな曲じゃないし。

どこかで電話に応答する声が聞こえる。

玉置 はい、そうです、で、そのどうでしょうか・・・えっそんな！

玉置が勢いよく植え込みから出てくる。

二人 ワアア！

山田 あなた中学生じゃないの？こんな時間にこんな所で何してるの？
加奈子 ……人を待ってて。

山田 誰を？

加奈子 お父さんを。

山田 そう、もうすぐ会えるのよね？

加奈子 ……分りません。やつぱり私もう帰ります。

山田 え、いいの？

加奈子 ……はい。

山田 大丈夫？

加奈子 大丈夫かなあ？

山田 あなたのことよ。

加奈子 あ、ハイ大丈夫です。

山田 あなた優しいのね。

加奈子 そんなことないです。

山田 その…お母さんはどうしてるの？

加奈子 え、あ…あの、福岡へ…そう昨日から弟と二人で福岡へ…あつ！そうそう、ふくやの明太子買いに行っただ。

山田 へえ！明太子を福岡までわざわざ買いに行ったの？かねふくの明太子なら通信販売でも買えるのに。おいしいわよ。で、あなた

は何で…？

加奈子 お父さんほっとけないから。

山田 仕事、忙しいの？

加奈子 そうだと思います。それじゃ私帰ります。

山田 そうね、でも危ないわ、こんな時間に中学生が一人で歩くのは。お姉さんが送って行ってあげるわ。

加奈子 お姉さん？ドコ？

山田 送ってあげるわ。

加奈子 いえ、大丈夫です。お姉さん。

山田 遠慮しないで。

加奈子 ほんとに大丈夫なんで。

山田 そお？

加奈子 それじゃ、失礼します。

山田 ……気をつけてね。

加奈子は傘を駅前角に置いて帰って行く。

山田 え、置いていくの？誰かに取られちゃうかもよ？

加奈子 これを見てお父さん帰ってくるかもしれないから…

山田 え、どういうこと？

加奈子は去って行く。

山田が聡と啓太に気付く。

山田 君達はこんな時間に何してるの？

啓太 ……歌ってるだけ。

山田 ただ歌ってるだけ？理由もないのに歌ってるの？

啓太 ……ああ。

聡 え、何言ってるんだよケイ？

啓太 俺がうたう理由って…？

聡 ケイ？

山田 悩める青春野郎、若いわね。

聡 俺らは夢を追いかけていつももうたってるんだ。

啓太 聡の夢だろ？俺はそんなことより今を大切にしたい。

山田 あんた達のことよきは知らないけど、夢追いかけるなんて生易しいもんじゃないわよ。

啓太 俺、帰るわ。

聡 え、おい…

啓太は帰って行く。

聡 (その後姿に) また明日な。

山田 ほら君今何時だと思ってるの？

聡 九時五七分。

山田 どこに住んでるの？三分で家に着ける？

聡 ちよつと無理かな。

山田 そんな頑張って3分で着かなきゃ補導しちゃうわよ。

聡 ……おばさん無茶言うなよ。

山田 やってみなきゃ分らないでしょ、って、あんた今おばさんって言った？言ったね？(十倍速)私をおばさんって、その言葉で三十路を過ぎた女の心がどれほど深く傷つくか、

聡 三十路？四十路だろ？

山田 まだ三十路じゃい！二年前まではおばさんなんて言葉一度も聞こえなかった。いや、聞こうとしなかった。いや、聞こえていたけど、私…

聡 聞こえないふりしてた。

山田 そう、聞こえないふりしてた。でも今は、「おばさん」という呼びかけに自分が呼ばれてないときでも思わず返事しそうになる悲しい三十路のお・ん・な。

聡 おばさん。

山田 はい何？

聡 四十路？

山田 み・そ・じ！

聡 で、今何時？

山田 よそっ・・・今、あら十時三分。

聡 あの俺、

山田 ねえこんなところでどんな歌うたってるの？

聡 俺も早く帰らなきゃ。

山田 もう今さら急いだってどうせ間に合わないでしょ。ねえ君、どんな曲歌ってるの？それだけ教えてよ、ハイあげる。（バナナを手渡す）

聡 おばさんが語ってたせいでからな！・・・自分で作った歌。（バナナをマイクに）聞きたいな！ちよつと唄ってよ。

山田 いやだよ！恥ずかしい。

聡 何言ってるんだよ、君今までいろんな人の前で歌ってたんでしょ。

山田 俺は、たくさんの人に聞かせようと思って・・・

聡 だから、誰かに聞いてほしいんでしょ？

山田 でも・・・

聡 だったら、あたしが聞いてあげる。ほら、唄ってよ。

山田 啓太がいらないから歌わない。

聡 そうなんだ。一人では歌えないんだ！

山田 違うよ！勝手なことばかり言うなよ。

聡 あ、そうだ、これあげるから。八百屋さんで安かったの。

山田 え、ハッサク？偶然だなあ、ありがとうございます。

聡 食べていいわよ。

山田 （皮をむこうとしながら）これってむくのが大変ですよね・・・

聡 それが人生ってもんよ。

山田 え？

聡 厚い皮をやさいく、そして力強くむいていけば、潤った甘酸っぱい果肉にたどりつけるの。

山田 あ、爪の間に入った。我ながらいいこと言ってる。

そこにウォーキング(大げさに真剣に早く)しながら秀子(聡の母)が通りかかる。

山田 こんな時間にデュークなんてなかなかやるわね。

聡 母さん・・・！

山田 あれ、あなたヒデリンじゃない？

秀子 あともう3歩待ちなさい。・・・ヒデリン？あーらマキロンじゃない！

山田 やっぱりヒデリンだったの！

秀子 その呼び方もうやめてよ、はずかしい。

山田 私もマキロンなんてもういやよ！

秀子 なつかしいわね、やーい消毒液！

山田 もう！ねえちよつと座らない？

秀子は聡を息子だと気づかない。聡は、ギターを置いたままその場を離れる。

秀子 あ、気をつけて帰るのよ！にしても、マキロンが補導委員になるなんてね。

山田 やだ、夜間の安全守り隊イエローだってばれたの！

秀子 まるわかりよ。昔は補導される側だったマキロンがねえ。

山田 もう昔の話しないでよ。

秀子 かなりあれてたもんね。タバコに飲酒、暴走、家出して夜の商売。

山田 勝手に嘘付け足さないでよ！あーもう忘れた忘れた。そんなことより、ヒデリンこそ何でこんな時間にデュークなんかしてるのよ？

秀子 さっきテレビ見てね、デュークって健康に美しくなれるんだって。ほら私って即行動するタイプじゃない。あらもうくびれてきた

かしら。

山田 嘘でしょ？

秀子 ほんとよお見てみて！

山田 そういえば昔から健康オタクだったわよね。ねえ、若返りの薬とかないの？

秀子 あるに決まってるじゃない。私を見ればわかるでしょ。今流行のゴーヤ製品はすごくいいわよ！あの苦みが効くのよね。今度うち

山田 においでよ。試してみたらいいわ。

山田 (秀子をじっと見て)ええ、そのうちにね。ところでヒデリン・・・

秀子 いるわよ、息子が二人。上の子がさっきいた子ぐらいの。もうちよつと低かったかしら。結構大きいのね。

山田

聡がギターを置き忘れていたことを思い出し、戻ってくる。

秀子 でもまあ家は子供に干渉しないから。今あの子が何してるのかなんてさっぱり。

山田 そんなことしてて心配じゃないの？悪い仲間に捕まっちゃったらどうするの？

聡 …… まさか！あの子達はしっかりしてるわよ。

秀子 気楽な親ねえ。

山田 そうかしら、自分のしたいこと精一杯やれる、オススメ教育法ですわよ。

秀子 亭主募集中……。

山田 えっ、そうだったの？アハハハ……ごめん、知らなかったの。

山田 何よその態度、傷つく。しっかりした子どもだって心では寂しがっているかもよ。

聡 ……

秀子 わからないわ、なんにも言わないんだもの。さて、もう息子も帰ってるだろうし。じゃまたね、マキロン。

秀子はデュークしながら帰って行く。その姿を見つめる聡。

山田 全くお気楽なやつ。

聡 俺はだから自由なんだな……（ふとギターを出す。静かに歌う。）

そこに、玉置（疲れたサラリーマン）が通りかかる。玉置はふと立ち止まり唄を聞いている。

山田 へえ、なかなか上手いじゃない。

玉置 ありがとう。これしかないけど。（手に提げていたナイロン袋からゴーヤを聡に渡し、去っていく。）

聡 （玉置を見たりゴーヤを気にしたり）ゴーヤ……。

山田 ゴーヤ？

玉置 そう、ゴーヤ。

聡 何でゴーヤ？

玉置 いつも使ってたものだけど、感謝の気持ちだから。それじゃ。

山田 何に使ってたの？

玉置 枕。

山田 このイボイボを枕？

玉置 このイボイボが効くんだよ。

玉置は傘に気づく。

玉置 加奈子……（傘をさす）

玉置は傘を持って植え込みに入っていく。

山田 あ、ちよっと！傘、えー！

聡 あーお前は！玉置！

山田 玉置？

玉置 イエス、アイムミスター玉置。

山田 なんて〜！？

玉置 イッツマイホーム。

聡 住んでんのかよ！？

玉置 じゃ。

玉置は傘をさしたまま植え込みに入ろうとするが、つかえる。

山田 無茶するなよ。

玉置 失礼しました〜。

玉置は傘をたたみ、植え込みに入っていく。

山田 嘘だあ〜

聡 謎だよな……

山田 あ、傘！もういわんこっちゃない……ゴーヤって若返り効果があるって言ってたわよね。ほんとかしら？一口食べてみたくなっ

ちやった。ほしいな。ほしいな、ほしいなほしいな……

聡 どうぞ。

山田 え、ほんとに？そこまで言うならもらってあげる。にがっ。

聡 それも人生ってもんよ。

山田 ！！

聡 あゝあ、枕食べちゃった。

山田 ！！（泣）

理恵がバイオリンを抱えながら歩いてくる。

理恵 もしもしお母さん、レッスン長引いちゃったからもうちょっと遅くなりそう。10時半くらいかな。大丈夫だって。ちゃんと借りてきたよ。分かってる、はい、気をつけます。はい、はい。

理恵は電話を切り、座る。ふと楽器を地面に叩きつけようとする。聡はとっさにそれを止める。

聡 うおーっと！それはまずいんじゃないの？高いんだろそれ。
理恵 二千万。

聡は慌てて理恵に楽器をしつかり持たせる。

理恵 ごめんなさい、びつくりさせちゃって。
聡 何かあったの？
理恵 どうかしたの？
山田 ・・・・何にもないよ、ちよっと振って見たの。壊そうとしてると思った？
聡 うん。地面に叩きつけようとしてると思った。
理恵 まさか、そんなことしたら私生きていけないよ。
聡 そりゃそうだよな、二千万なんて手放したら人生終わっちゃうよ、俺だったら。
山田 二千万！？はーふざけた値段ねえ。
理恵 私、これに生かされてるんだよね、バカみたい。
聡 それなら俺だって、ギターのおかげで生きてるよ、バカみたいに。
理恵 聡君と私は全然違うよ。

山田 私も全然違うわよ。
聡 え、そうか、なんか似てると思ったんだけど。
理恵 どうして？

聡 いや、別になんとなく・・・
理恵 ギターから逃げたいと思っただことある？

聡 そんなことあるわけないよ。
理恵 そう・・・私聡君が羨ましいよ。

聡 何で俺なんか？

理恵 何でって・・・自由だから。ケイちゃんみたいな人とき、自分達がしたいこと精一杯やってるから。

聡 確かに、俺は自由だけど・・・
理恵 私、時々思っちゃうのよね、才能ないんじゃないかって。なのに先生にもお母さんも練習練習って、6時間もよ。なんでこんなに縛られなきゃいけないの。

山田 6時間はないわあ、私には無理だわ。

聡 じゃあさっきのはやっぱり・・・

理恵 こんなものなくなっちゃえばいい、でもなくす勇気はないんだよね。私、普通になりたいな。

山田 変わった子。

理恵 自由がほしい、聡君が羨ましい。

聡 自由すぎるのもどうかと思うよ。

理恵 そうかなあ・・・？
山田 あははは！・・・ねえちよっと聞いてえ、二人ともさあ、私のこと無視してたりしないかな？

聡・理恵 あ・・・

山田 どうせ・・・おばさんなんかあんた達の目に入らないわよね。分かってる、分かってるわよどうせおばさんだもんね、もういいわよ、帰るわよ。

山田は去っていく。

理恵 あの誰？
聡 補導委員さん。

山田 (少し戻ってきて) 早く帰るのよ。

理恵 やっぱりそっか、補導委員、私たち悪いことしちゃった？

雨が降り出す。

理恵 あ、雨。
聡 ほんとだ、そこ入ろうよ。
理恵 そうだね。

二人は屋根の下に入る。

理恵 あのね、今週の日曜日にコンクールがあつてさ、そこで演奏するためにこんないい楽器貸してくれたんだ。

聡 そうだったんだ。二千万。

理恵 壊したら大変。

聡 振ってたけど大丈夫か？

理恵 あれくらい平気だよ。

聡 そっか、良かった。

理恵 ねえ聡君って何が好き？

聡 うなぎ丼。

理恵 あ、そうなんだ。おいしいよね。で、好きな音楽は？

聡 そう言われてもよく分からないから・・・

理恵 クラシックとか聞く？

聡 聞かないな。いや、嫌いなわけじゃないんだけど。

理恵 やっぱりそういうもんなんだよね。クラシックなんて・・・

聡 なんかこう・・・背広着る感じなんだよね。ビシッとしなきゃって・・・

理恵

ああね。かたつ苦しいってことでしょ？

聡

いやあ、そういうわけじゃ・・・

理恵

気遣わなくていいよ、クラシックは「つまらない、眠い」って思われがちだし。ごめんね、なんか変な話して。

聡

コンクールってどこでやるの？

理恵

環紀津市民ホールで。

聡

うん、頑張る。そういえばケイちゃんは？

理恵

・・・ん、あああいつは・・・ちよつとおつかいに。いつまでかかってんだあいつ

聡

もう戻って来ないんじゃない？

理恵

え・・・

聡

だってこんな時間だよ？

理恵

あつそうか、そうだよ。つてゆうかどんどんひどくなつてないか雨。

聡

そうみたいだね。・・・ケイちゃん？

理恵

えっ！

聡

あ、ごめん、見間違ひみたい。

理恵

ケイ・・・また明日な・・・

聡

どうかした？

理恵

いや、明日は晴れるのかな？

聡

晴れるらしいけど、風が冷たいって。

理恵

そっか。

聡

一瞬の青転。時間が過ぎ、人が流れていく。

聡

夕方の明るい道の影でただギターを引き続ける聡。その前を様々な種類の人間が、時に冷ややかに見つめ、通り過ぎる。聡は啓太に電

話するがつかない様子である。そこに、聡のクラスメートの夏輝と有紀が騒がしく通る。

聡

電話くらい出るよ・・・

夏輝

あれ？なんとなく見たことある顔のような・・・

有紀

あのギターの？夏輝あんなのと知り合いな？

夏輝

知り合いつて言うほど知り合ひじゃないけど、見たことあるって感じ。

有紀

気のせいなんじゃないの？もういいじゃん、大してかっこいいわけでもないし。

夏輝

でも、ここまで出てるんだけど・・・うっ！おっ！苦しい、早く早く私に牛井を！

有紀

わかった牛井呼んでくる！牛井？私に買つて来いつて言うの！バカ言うなよ、自分で勝手に食つて来い。

夏輝

私の胃が！胃が・・・音を立ててなくなりそうです。腹減つたあ。あ、大森だ。

有紀

分かった分かった、すき屋の牛井大盛り食べに行くべ。へい、いこ。

夏輝

違う、大森なんだつて！

有紀

分かってるよ、あたし大盛りつて言つたじゃん。

夏輝

言つてた？ユキリンもじゃあ知つてたの？

有紀

大盛りぐらい知つてるよ。

夏輝

じゃあ最初から言つてよ！私ずつと考えこんでたんだから。

有紀

考え込むほどのことじゃないじゃん。もういいから行こうよ。

夏輝

ねえ、大森にちよつと話しかけてみない？

有紀

大盛りに話しかけるの！？あんた大丈夫！？それ、あたしはバスだわ。夏輝一人でやつてて。

夏輝

なんだよ？ちよつとからかうだけだからさあ。

有紀

何だこいつつて思われるつてば！

夏輝

そうかなあ、じゃあちよつと待つてて。

有紀

つて、どこいくのよ！？夏輝ー！意味わかんないよ・・・

夏輝

夏輝が聡に近づいて、顔を覗き込む。そして一方的に話し始める。

聡

大森君、だよな？びっくりしちやつたあこんな所で逢うなんて。

夏輝

小森です。

聡

ギター弾けるんだあ、すごいね。

夏輝

どうも。

聡

今度学校でも弾いてよ、ね。

夏輝

考えとくよ。

聡

にしてもギター持つてる大森君、かっこいいよ。

夏輝

そうかな？ありがと。

聡

そろそろなつちやん行くね。じゃあ大森君がんばつてね

夏輝

おう。小森だよばか。

聡

夏輝は有紀の所へ戻る。

有紀

・・・大森か！

夏輝

そうじゃん、でもよくやるよね、こんな所で一人つきりでき。クラスでは全然存在感ないのに意外な感じ。

有紀

あー！この前もここで歌つてた！気がする。

夏輝

ん？そうだったつけ、わかんない。

有紀

確か二人だったような・・・にしても何考えてんだか。こんな人前で恥ずかしくないのかねえ。でも夏輝つたらあんな奴のことか

聡

つこいとか言つちやつて。

夏輝

冗談に決まつてんじゃない、つてゆうか何か笑つちやわない？本気で歌手になろうとでも思つてるのかなあ。

有紀 そんなわけないっしょ。

夏輝と有紀は去っていく。

聡 ……あんな奴ら俺には関係ない。

聡は弾き始める。だんだん日が暮れていく。聡の携帯電話が鳴り、聡はメールを見る。

聡 あっ！ケイ！あいつどうしてたんだよ、「聡、マジめんごめんごめんご！いろいろ大変だったんだよ（苦笑）」あいつはもう……！（啓太に電話する）ケイ！何があったんだよ！？全然電話も返って来ないし心配しまくって、めんごめんごめんごってば！いろいろあつてさ……

啓太 何があったんだよ？

聡 ケータイ……炊飯器の中へ落としちゃったままご飯炊いちゃったから。あほだろ。

啓太 あほじゃねえよ！ケータイは一見普通だったけど内側はみるも無残な姿でさあ、でもケータイ味のご飯は格別だったぜ。まあ米粒全部とったらケータイ復活したからよかったよ。

聡 すごい生命力だな！そんなことより、お前今何してんだよ？何って、息。

啓太 小学生かよ！

聡 お前は息してないのか！

啓太 ああしてないね。正直に言えよ、あれからお前何してんだよ？あれから？ああ相当やばい。

聡 どうして来ないんだよ？

啓太 聡……お前はいつまで夢見てられると思う？

聡 夢は叶うまで見てられるもんだろ。何だよ急に。俺はもう見れないって思った。俺ハツサク辞めるわ。考えてたんだ、前からずっと。は！？……なんでだよ、一緒にゆず目指そうって言ったのお前だろ。

啓太 俺、もう諦めた。聡こそ本気でまだ歌手デビューできるだなんて思ってるのか？無理だよ無理。何言ってるんだよ、本気で言ってるのか？そんなの、ケイじゃねえよ。

啓太 俺は俺だ。いい加減お前も気づけよ、どれだけの時間を無駄に過ごしてるか。俺がいなきゃ誰も聞いてくれないんだろ？俺一人でだってやろうと思えばできる！

聡 そうか、良かった。

啓太 ケイは……もう歌わないのか？

聡 ああ。もう歌わねえよ。俺は、勉強する。国立大学入れるように頑張るんだ。

啓太 ケイ……変わったな。変わったよ。後悔するのだけはごめんだからな。聡には悪いんだけど、俺音楽でやってけないとおもうんだ。……聡は大学どうするんだ？

聡 俺はそんなことより……

啓太 音楽か、頑張れよ。

聡 ケイ……

啓太 じゃあな。

聡 待てよ、ケイ！

電話は切れ、聡は呆然として座り込む。

聡 ……意味わかんねえよ。もう、終わりなのかな……

聡は植え込みの上で寝転ぶ。玉置が酔っ払った様子で歩いて来る。

玉置 兄ちゃんどうかしたんですかあ？

聡 ……あ、玉置。いえ、別になにも。

玉置 ほんとにいい？

聡 ……嘘ですけど。

玉置 おじさんでよかったですら悩み事なんでも聞きますよ。

聡 ……べつにいいです。

玉置 じゃあおじさんの悩み聞いてくれる！？もう自分が何してんだか

夏輝と有紀の笑い声が近づいてくる。

玉置 ノルマをクリアしろ！とか言われてもくもう無理だつて

有紀 何あの親父。

夏輝 あっ大森君まだいる。

有紀 暇だね

夏輝 大森君、今日はもう歌わないの？

聡 俺は小森だ。

夏輝 うそくまあどっちでもいいじゃん。

山田が見回りにやってくる。

山田 あら久しぶり、元気だった？

聡 はい。

夏輝 (山田の服装を見て) あの服マジよくなくない？

有紀 マジイカしすぎ。

山田 何話してるの？お姉さんも入れてよ。

夏輝 えーいやだよお婆さんは。

山田 ははは、あんたイエロービント受けたいうねえ！

有紀 お婆さん落ち着いてっつてば！

夏輝 暴力反対！

有紀 あたし達の邪魔しないでよ！！

山田 はっ！もうあんた達なんか知らない！

夏輝 初めから知らないでしょ。

山田 どうせ私は仲間はずれよ！ただの寂しいお婆さんよ！そうだ、あんた達今何時だと思ってるの？子どもは家で寝る時間でしょ。

有紀 は？なんでお婆さんにそんなこと言われなきやなんなの！？

山田 見て分からない？夜間安全守り隊イエローだからよ！

二人 超イカすんですけど！(笑)

有紀 こんな微妙な田舎に危険なんかないのに。

夏輝 それならイエローさん、大森君だっつてそうでしょ。

山田 そりやそうだけど、今日はもう歌わないの？

聡 はい。

山田 私また聞きたいと思っつたのよね、一回だけ歌っつてくれないかなあ？

夏輝 あ、それならなっつちゃん達も聞いていこうよ、全然聞いたことないし。

玉置 兄ちゃんまた歌っつてくれよ。

山田 ほら変なおじさんもそう言っつてることだし歌っつて！

夏輝 たくさんの人に聞いてほしいっつて言っつたじゃない！

山田 お願いっつてば！大森君！

歌っつて歌っつて！

有紀 以外は口々に頼む。

聡 うるさい！勝手なことばっつかり言いやがっつて。

夏輝 そんなあ、ちよっつとだけだからさ。

聡 俺のことからかうのがそんなに楽しいか？

山田 誰もそんなこと言っつてないわよ。

聡 俺が一人ぼっちなのがそんなにおもしろいか？

夏輝 え・・・

聡 そう思っつてんだろ？なあ思っつてんだろ！本気で歌手になりたいなんて馬鹿な夢だよな！

有紀 何八つ当たりしてんの！

聡 違う！俺は・・・

有紀 俺は何？はっつきり言いなよ。

聡 俺の気持ちがお前らなんかに分かっつてたまるか！

夏輝 ひどい！なっつちゃん何にも悪いことしてないじゃん。

聡 お前らみたいな半端なやつが大っ嫌いなんだよ！

間

有紀 あんた何でうたうの？誰もあんたの歌なんか聴いてないよ。

聡 ・ ・ ・

山田 ごめんなさい、私が歌聞きたいなんていい始めたからだね。もう帰りなさい、10時まわっつちやっつてるわ、親に心配かけるなよ。

夏輝 走れば捕まらないんだ？

山田 急いだ様子であればわざわざ止めたりしないわ。

有紀 それ、言っつちやっつてよかつたの？

山田 おっつと。秘密だからね。ほら走れえ！君も早く帰っつたほうがいいわ。

聡 はい。

山田 考え込んじやダメよ・・・

女子高生と山田は去っつていく。

聡 俺は帰らなくなっつて心配されない、俺は自由なんだよな。自由なのにな・・・俺、何してんだろ？

玉置が去る。

だんだん聡の周りが暗くなっつていく。

そこに理恵が現れる。正面を向いて二人は思いを言っつう。

理恵 自由がほしい。

聡 自由なんかいらんない。

理恵 私のことはほっつておいて。

聡 俺を見てくれよ。

理恵 誰か私の言葉を聞いて。
聡 誰か俺の言葉を聞いてくれよ。
理恵 私にとって音楽って何？
聡 俺にとって音楽って何だ？
理恵 美しさを競うもの。
聡 唯一の居場所。
理恵 道。
聡 夢。
理恵 孤独。
聡 仲間。
理恵 ステージ。
聡 街角。
理恵 何のために？
聡 何のために・・・
理恵 私は、
聡 俺は・・・

玉置・山田・真理亜・啓太も出てきて歌の歌詞を語る。

玉置 いつの頃からか 臆病になって
理恵 気がつくとも周りのことばかり見ている

山田 変わりたいと願っているけど

真理亜 変わりことを許さない現実

啓太 どの道もやがてはあの空の下へたどり着く
聡 一歩ずつ踏みしめ進んでいこう つかみたい 思い描く明日の空 俺の歌・・・俺は、俺の歌をみんなに響かせたい。

理恵がコンクールでバイオリンを弾いている。それを聴く聡。理恵は途中で間違っってしまう。

暗転

道で聡はコンクールから帰ってくる理恵を待つ。

聡 お疲れ様、聴いてたよ。

理恵 ああ、そうだったの。情けないな、あんな所見られちゃって。

聡 結果は？

理恵 ダメに決まってるでしょ、最低な結果だった。

聡 そっか、残念だったな。

理恵 コンクールってね、客は入らないの。寒々してたでしょ。関係者だけがまばらに座っててさ、ライバルのミスを探しあうの。自分が弾くときはね、ミスしないようにミスしないようになって思いながら弾くの。そしたら、緊張の糸がどんどん張っちゃって・・・もう限界だって思った。そしたら突然頭の中が真っ白になっちゃって・・・もうこんなことやめたい。

聡 だめだ！逃げるなよ。俺、あんな気持ちになつたの初めてだ。
理恵 え？

聡 あの時の理恵さんの音、すごく辛そうだった。

理恵 音の気持ちなんて分かるわけじゃないでしょ。

聡 分かるよ。もう心が耐えられなくなつたんだろ。

理恵 心とかそんなもの関係ない。失敗したから何もかも終わったの。

聡 そんなことないよ。俺間違ってたんだ、審査員に気に入られようとばかり考えながら弾いてた。音楽ってさ人の心に聞かせようとして初めて、本物の音楽なんだよ。

理恵 え・・・
聡 あんなの理恵さんじゃない。

理恵 何言ってるの？

聡 自由に弾けよ。理恵さんのしたいように。

理恵 できないよ・・・
聡 できるはずだよ。自分を隠すのやめてちゃんと正面から自分を見てみるよ！

理恵 怖い・・・

聡 そんな風に頑張らなくていいんだよ。

理恵 私は何がしたいんだろう・・・？何のために、私は音楽を？何のためにここにいるの？

聡 何のために、そんなに頑張るんだよ？

理恵 私は・・・私の音をみんなに、ここに響かせたいの。

聡 俺もだよ、同じこと考えてたんだ。

理恵 ・・・・ここで一緒に弾かせて。ハツサクの歌。

聡 え？

理恵 私もここで弾きたい。

聡 弾こう。

二人は弾き始める。いろんな人が集まってきて、二人の音楽を聴く。玉置は離れた場所で聞いている。そこに真理亜がやってきて、聖子と呼び二人は気持ちよさそうに聞く。

真理亜 ステキな曲だったね。

聖子 誰が歌ってるのかしら。
真理亜 ママ、ゴジラだよ。
聖子 ゴジラなんて地球にいるわけないでしょ。
真理亜 ママが言ったのに。
聖子 そうだったわね、あの時はそう感じたのよ。

親子は去っていく。

山田 わくん「泣」あなたの音、すてきだわ
夏輝 小森君、見直しちゃった。
有紀 やるじゃん小森。
山田 私、あんた達大好き。
秀子 聡、久しぶりに感動しちゃった。
聡 母さん・・・
秀子 ごめんね聡、寂しい思いさせて。
聡 うん。
秀子 これからは母さん応援するわよ、聡がやること全部。
聡 もう子どもじゃないから。今までどおり自由にさせてほしい。
秀子 そうね、何だってできるよね。聡次第。
聡 プレッシヤーだなあ。

玉置が前へ来て突然大声で叫ぶ。

玉置 へーんしーん！

人々は驚き玉置に視線を移す。

玉置 次こそ俺は変わるんだっつ！俺をなめるなよ！見返してやる、会社のばかやろー！世間のバツカヤロー！
聡 またお前かよ！
理恵 聡君の知り合い！？
聡 え、違うよ！ちよつと知ってるけど、つつかあんた何者なんだよ？
玉置 俺のことか？
有紀 あんた以外いるかよ！
玉置 えーほんとにい俺？
全員 うざっ。

全員が玉置をののしる。

玉置 あゝ(泣)
夏輝 泣くなよ気持ち悪い。
玉置 ひどすぎる・・・俺を甘く見るなよ！聞いて驚け！俺はなあ・・・
山田 あ！あなた、この前ここに置いてあつた傘持って行っちゃったでしょ。あれはね、お父さんを待つ娘が優しく置いていったものなのよ。
玉置 あれはく俺のだ。
山田 まあずうずうしいわね！信じられない。
玉置 お、俺の話聞け！俺はなあ、あるときは植え込みの住人、
秀子 つてことはホームレス？
玉置 ・・・またあるときはサラリーマン！だった。
有紀 リストラか。
玉置 そしてその実態は！！玉置くフラッシュ・・・

加奈子が通りかかる。

加奈子 お父さん！？
玉置 加奈子・・・！

数秒間、全員スローモーションで動く。

加奈子 お父さあん！
玉置 かーなーこー！
加奈子 (玉置の額をはたく) バカ！こんな所で何やってんのよ。
玉置 かつかかかか加奈子、お父さんはその変身というか生まれ変わるといふのか何というかその再就職するみたいなのでもなくその・・・
加奈子 心配してたのよ、ずっと無理しながら働いてるんじゃないかって。
玉置 すまん・・・そうじゃないんだ、でも加奈子、父さんもこれからは頑張るから。
加奈子 やっぱりお父さんここにいたんだ、バイトもしてたんでしょ。
玉置 え、知ってたのか！
加奈子 探し回ったもん。
玉置 ・・・ごめん。
加奈子 お父さん、しばらく休もう。

玉置 でも・・・
加奈子 お父さん福岡行こう。お母さん待ってるんだと思うよ。
玉置 福岡？母さん実家へ帰ったのか・・・加奈子はなんで行かなかったんだ？まさか、ずっと一人で家に？
加奈子 お父さんがいなかったからだよ！私、必死に説得してこっちに残らせてもらったのよ、福岡のおばあちゃんの家ぐらい一人でも行けるって言い張ってさ。大変だったんだから。
玉置 加奈子・・・
加奈子 寂しかったんだから！お父さんに会いたかったんだから！でも、もうどうしたらいいか分からなくなって・・・
玉置 ごめん加奈子、ごめん！
加奈子 ばか親父。もういいよ。お母さんのところへ行こ、仲直りしよ。
玉置 でも、父さんまたクビになって・・・
加奈子 また？もうお母さんに任せればいいじゃん。主夫も似合うってお父さん。それにお父さんも好きでしょ、明太子。
玉置 母さんの方が好きだけどな。
加奈子 (全員の視線を感じて) どうかしましたか？
全員 なんでもない。
秀子 あったかいわね。もうすぐ冬なのに。
加奈子 そうですね、木枯らし一号はまだですもんね。
山田 温暖化現象かしら。
夏輝 あーそれ知ってる！地球がボワーンってなるんでしょ！
有紀 ちよっと違うかな。
玉置 加奈子、行こうか。

二人は去っていく。

秀子 いいわね、親子って。
山田 そういえば、ヒデリンの息子ってこの子だったの！？
秀子 そうよ、ねー我が自慢の息子、聡。で、あなたは？
聡 理恵さんっていつて、(小声で) 啓太の・・・友達だよな？
理恵 聡君の友達です。はじめまして。
夏輝 理恵ちゃん、なっちゃんバイオリン聞いたの初めて！ありがとう。
理恵 こちらこそありがとう聞いてくれて。私、こんな気持ち初めて。なんかすごく嬉しい。
聡 俺もだよ。
有紀 私も。音楽っていいもんね。あのさ小森・・・私この前あなたにひどいこと・・・
聡 あの時ありがとう。おかげで自分の気持ちもしたいたいことも見つけた。
夏輝 良かったね。
聡 ありがとう、俺頑張るよ。
秀子 じゃあ母さんも今日は頑張っちゃおうかな。晩ご飯はく明太子スパゲッティ！
夏輝 いいな～
秀子 張り切って買ってくるから！
有紀 作りはしないんだ。
山田 待ってヒデリン！私も一緒に買いに行く。
秀子 行きましよ行きましよ。聡、冷めないうちに帰ってきなさいよ。

秀子と山田は去っていく。

夏輝 ねえ～牛丼食べたい。
有紀 私も、同じこと思ってた。
夏輝 よおし行くべー。
有紀 大森大森。
夏輝 大盛り大盛り。

2人はスキップしながら去っていく。

理恵 今日はありがとうね。本当に。
聡 俺も。きっとバイオリンの演奏会もストリートライブも一緒なんだ。心を温かくつなぎ合わせてくれるんだよな。
理恵 私もやつと分かった。
聡 俺また受けてみるよ、オーディション。
理恵 私も、ジュリアード音楽院受験してみようかな。
聡 ジュリアード？へえ、それどこ？
理恵 ニューヨーク。
聡 ニューヨーク！？あのニューヨーク？
理恵 そのニューヨーク。前から薦められてね、絶対行きたくないって思ってたけど、なんかもつと音楽の勉強したくなっちゃったし。ってことは・・・しばらく向こうにいるってことだよな？
聡 そうなるね。
理恵 あー元気でな。あんまりハンバーガーばかり食べないほうが良いよ。
聡 うん、気をつけるね。来年の話だけど。
理恵 来年？なんだ無駄にあせったよ。
聡 なんで？
理恵 なんてってその～ほら、今の世の中いつ何が落ちてきたり飛び出てきたり転がってきたりするか分からないから。そうだね、気をつけなくちゃ。

聡 ……うそだよ。
理恵 分かってるよ！それじゃ、私帰るね。

理恵は帰りかける。

聡 あのさ、一つだけ聞いていいかな？理恵さんは、その、好きな…
理恵 何？
聡 好きな…飛行機は？
理恵 ……ブルーインパルス。
聡 好きな…ひ、非常階段は？
理恵 好きな非常階段？…？
聡 いや、その…好きな…人
理恵 一つって言ったのに。
聡 ごめん。
理恵 私、バイオリンが好きなもの。
聡 そうだよな。うん、そうなんだよ。何言ってるんだ俺。
理恵 うなぎ丼も好きだけど。
聡 俺も好き。
理恵 それじゃ、またね！
聡 おう、またな！

幕